

三重県立上野高等学校
同窓会報

VOL.3

白 HAKUA 亜

事務局：〒518-0873
三重県上野市丸之内107
上野高等学校内
TEL & FAX：0595-24-2231
ホームページ：
http://www.ict.ne.jp/~hakua/
E-mail：hakua@ict.ne.jp

講師に西口 浩さん(高9回)
～総会10月3日に開催～

平成16年度の総会・講演会・懇親会を下記の通り開催します。お誘い合わせの上、多数ご出席下さいますようお願いいたします。受付は当日会場で行いますので、自由にご参加下さい。懇親会参加者には、ささやかなプレゼントをご用意いたします。(今回協賛学年にあたる上高4回、9回、14回の皆様は、こぞってご参加下さい。)

- ◆日時 平成16年10月3日(日)
14時～総会 15時～講演会 16時～懇親会
- ◆会場 上野フレックスホテル
- ◆演題 「宇宙からの時空間(四次元)情報利用の時代」
—カーナビは何故日本が世界一普及しているのか?—
芭蕉「奥の細道」に見る歴史的背景—

◆講師からのメッセージ

日本のカーナビ市場は過去12年間毎年右肩上がりに伸展し続けており今や一つの産業に成長している。諸外国に比べて突出して伸展している理由は何なのか? 芭蕉の「奥の細道」に見る歴史的背景があるようである。そのカーナビになくてはならない源であるGPSは、世界中の人々に知らず知らずの内に使われている衛星測位システムであり、目には見えない故に一般には知られていないが、カーナビの他にも時計の時刻標準として、インターネット接続として、地理・地図の基準として色々な分野で決定的な役割を演じている。まさに21世紀を代表する四次元情報の源泉である。

また、伊賀忍者は、江戸時代において情報を収集・分析・評価・行動して幕府の戦略決定を補佐するお庭番機能を発揮した。誰に知られることもなく一般に評価されることもほとんどない。しかし決定的な役割を演じてきたのが伊賀忍者でありGPSの有用性と相通じるものがある。芭蕉の奥の細道の旅は伊賀忍者に働き易さを提供したとも云われている。GPSとともにいずれも伊賀に馴染み深い感概を感じるものである。

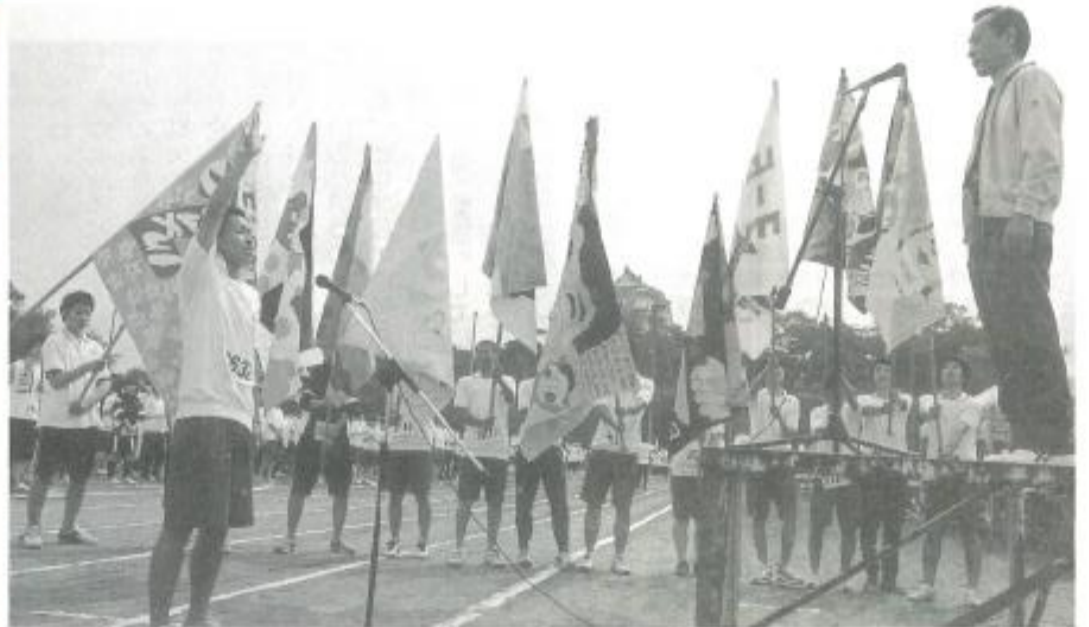
今回の講演では、衛星測位システムの概要に触れ以下の利用分野に焦点を当てる。

- ・芭蕉の「奥の細道」が開いた日本のカーナビ市場
- ・新地理規準「測地成果2000」(02A.1から施行)はGPS測位が基盤：日本列島は振れている。宇宙基準の地理に基づくGISが伊賀を発展させる。
- ・GPS精密時計が国際標準時の秤であり電気通信の要：
電子取引、GPS携帯電話の威力
- ・LBS、テレマチック：カーナビが開く位置情報サービスの世界
- ・位置情報って何?：
自分の位置を知る。自分の位置を他人に伝える。他人の位置を知る。
物や情報の位置を知る。地籍面積(固定資産税)を正確に知る。

プロフィール



にしぐちひろし さん
1939.10.7生まれ。1957上野高校第9回卒。1961名古屋工業大卒。三井物産入社産業機械部門に配属。1974-1979(ソウル支店)重化学工業プラント輸出ビジネスの最前線に立つ。帰国後1980-1986関西新空港プロジェクト。1987情報産業部門に転属し国際通信・衛星通信・セキュリティJV社長・マルチメディアセンター所長等に就任。1991.10郵政省のGPSミッションに参加し1992衛星測位システム協議会(業界団体)設立時に事務局長に就任し現在に至る。この間1996.12三井物産定年退職後も1998.12まで三井との出向契約。1999.1以降協議会専属。1997宇宙開発委員会専門委員。現在米国GPS国際情報小委員会アジア地域代表。2003米国運輸省及びNASAから日米民間外交に貢献表彰等受領。2004.8.1総務省より電波功労賞を授与される。計測と制御学会・情報通信学会・電気情報通信学会等への寄稿など。



「宣誓……」体育祭の開会式で 6月10日

ごあいさつ



同窓会長
星 周輔

平成十六年度の会報を発行するにあたり一言御挨拶申し上げます。平素は会員の皆様には同窓会の運営に格段の御支援、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて同窓会の財政基盤の充実を目指し、平成十四年度より年会費制を導入致しましたところ平成不況の真只中にも拘らず、沢山の方々から御協力を賜り重ねて御礼申し上げます。この基金が同窓会活動の原動力である学年別同年会や各地区の支部活動への助成金としてわずかでありますが運用され、同窓会活動の活性化のために役立っているものと思えます。又この「白亜」が我々同窓生の「心の絆」となり卒業生の連帯の輪を広げるすばらしい会報になるよう充実発展させていきたいと念じています。今後皆様方には同窓会と母校上野高校の発展のため、さらなる御支援御協力を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶いたします。



学校長
上村 桂一

同窓会の皆様には、益々ご清勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より上野高等学校の教育の振興に格別のご高配を賜り、誠に有難うございます。さて、上高生は、皆様から自強不息の精神をしっかりと受け継いで、頑張っています。昨年度も、ギターマンドリン部、写真部、そして吹奏楽部が全国大会に進み、優秀な成績を納めました。申すまでもなく、学業においても上高生は大いに実力を発揮しており、今春も難関とされる大学に合格実績を伸ばしております。

今、社会が激しく変化する中で、自ら考え行動する力が求められています。上高生がこのような力を養って自らの夢を実現し、そして社会の発展に貢献する人に育つよう、本校教職員は一九となつて取り組んでいます。皆様には、本校教育に一層のご支援をお願いいたしますとともに、益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

上野高校近況

新緑の枝がそよぎ、教室の中の掲示物がバタバタと音をたてています。今から40年ほど前、あれがメタセコイアだと生物の先生から聞いた木が中庭で揺れています。「卯の花に葉房みゆる白毛かな」曾良の「卯の花」とは講堂の前に咲いているあの白い花だと古典の先生が教えてくださったのもその時代でした。今はそのウツギの木もなく、松食虫にやられた松も切り倒され、木造の講堂があったことを知る人も少なくなりました。

上野高校やその近辺も、年月とともにどんどん変わっていきます。校舎のバリアフリー化が進み、昨年度末には武道場へのスロープ、普通教室棟2階、3階へのエレベーターも完成しました。西小学校との間にある並木の桜は例年より早く咲き始めましたが、咲き始めてから散るまで少々長く楽しませてくれたようです。数年前に整備された中庭の扇の芝の碑の周囲にはまた新しい萩の枝が茂り、そのとなりにはカラタチが植えられています。カラタチは昔から上野高校の生徒でした。

6月には体育祭が開催されました。数年前までは上野市の陸上競技場が会場でしたが、やはり、上野城の天守閣を仰ぎ見ながら第2グラウンドを駆けまわることが気持ちいいのではないのでしょうか。文化祭とともにクラスが盛り上がるのが体育祭です。その応援風景も時代によって異なり、また、早朝のクラスでの団体種目の練習など様々な思い出がよみがえってくる行事です。卒業生が教育実習生として2、4週間過ごすのもこの頃で、今年もなつかしい顔が見られました。

長い夏の日もようやく暮れ始め、クラブ活動を終えた生徒たちが挨拶をかわしながら下校してきます。これから塾へ行く生徒もいるようです。また、昨今の交通事情にもよるのでしょうが、保護者の車で送り迎えしてもらっている生徒も多く見られます。これも時代の流れでしょうか。

(市岡千明 本校教諭 高9回)

ユニークな「漢和辞典」と「国語辞典」を編集

立教大学教授 沖森卓也さん(高22回)

研究者は専門分野にこもってばかりではなく、その成果を社会に還元したいと考えていますので、辞書の編集もその一環だと思っています。

今春刊行された「五十音引き 漢和辞典」(三省堂)の編集者は、沖森卓也さん(立教大学教授)。昨年も共編で「表現 読解 国語辞典」(ベネッセ)を出され、二年連続で編集辞書が刊行されたことになりました。本同窓会員で国語、漢語の辞書編集者としては、かつて「古語辞典」(小学館)で名を馳せた中田祝夫さん(上中32回・元筑波大教授)以来の久々の快挙です。

辞書離れが進み、大学入試にも漢文を課すところが少なくなっていることなどが背景にあつて新しいスタイルの辞書が求められてきたようですね。楽しんで使ってもらいたい、という気持ちで工夫しました。

お話の通り、沖森さんの2つの辞書を開くと新機軸が目立ちます。「五十音引き漢和」には、例えば「愛人」は中国では「正妻」を、韓国では「認知度の高い恋人」を意味する、など楽しめるコラム「日中韓同形異義語」が折り込まれています。このところ日本では韓国のドラマが空前のブームを巻き起こしていますが、この辞書には中国語音(ピンイン)とともにハンゲル読みも付けられていてハンゲルの学習にも役立ちそうです。



プロフィール

おさもりたくや さん
立教大学教授。文学博士。
上野市生まれ。上野高校22回卒。
●1977年 東京大学大学院修士課程修了。
東京大学助手、白百合女子大助教授、立教大学助教授を経て90年から現職、日本語学専攻。
主な著書(本文に記載のものを除く)
「藤氏家伝 鎌足・貞頼・武藤麻呂伝注釈と研究」
「歌謡様式 注釈と研究」
「日本語史」
「日本語表現法」など。

みの変遷を理解できるようにしました。

「表現 読解 国語辞典」の方は、辞書の記述を超えた形の特集記事が多く入っていて高校生の小論文、現代文の学習には大変便利にできていますね。

幅広い高校生に対応出来るよう表現分野の資料や古語から現代語への関連も盛り込みました。辞書の編集には以前から関わっていて、語の意味・用法を厳密に分析し、辞書研究の進展を図る「語彙・辞書研究会」の設立当初からのメンバーであり、「岩波漢語辞典」(87年)や「大辞林」(88年)の編集委員にも加わっていました。

漢文から和文へ古代の日本語を解明

沖森さんの学者としての専門分野は上代日本語学。固有の文字を持たなかった古代の日本人が、中国から伝わった文字、漢字を日本の文字として使い始めた時代を研究対象にされています。その素地は、古書店主として全国的にその名を知られていた故・直三郎さんを祖父にもつた幼少年期の家庭環境にあったのでは?

確かに祖父から歴史の話などいろいろ聞いていたし和綴りの本が家の中に並んでいるというのは特異な環境でしょうね。小中学校の頃は日本史の年表や系譜などの資料を収めた「読史備要」という本を、愛読してましたね。大学で日本文学を専らたというよりはやはり祖父の影響が大きいと思います。でも感性が主になる文学ではなく実証的な日本語学を選びました。

では、実家の資料や蔵書が大いに役立つことに?

そうならば資料蒐集に自負を持っている祖父の負担になるので、近世以降のものを扱っていた祖父の守備範囲ではない古い時代を研究対象にしました。

専門家には「垂涎的」であつても身近なもの安易な利用を避けるという深い研究姿勢で日本語の源流に迫っていかれたというわけです。



学位論文は、その一部を除いて「日本古代の表記と文体」(吉川弘文館・00年)として歴史専門の出版社から出しました。

昨今、各地の遺跡から発掘される金石文や木簡を読み解く研究でもありま

すから新たに出てくる資料には期待する半面、自説が覆される怖さもありま

すね。出土した鉄剣銘や木簡を解説して、漢文を和文文化していった時期、音訓の交用や万葉仮名の成立過程を明らかにされたこと。とはいえ門外漢にはちょっと難解なお話です。しかし一般向けとしてそのダイジェスト版「日本語の誕生」(吉川弘文館)を出されていますので一読をお勧めします。

今の大学・学生事情あれこれ

さて、大学の先生のもう一つの仕事である教育に関して、大学改革や現代学生気質も気になりますね……

ご多聞にもれず立教も学生による授業評価が取り入れられています。一方、学生の生活は、スケジュール表を見ながら友人と約束をしていますがからずいぶん忙しいんですね。我々の頃はもっとおおざっぱだったと思いますよ。

立教大学では、アジアの留学生を大勢受け入れています。また、92年に北京大学に、昨年のサッカーワールドカップの頃には韓国の高麗大学に出演していました。どちらの国の学生も外国語の勉強に力を入れており、特に韓国の高校生の英語の学習熱は実用的です。それに比べて日本人の勉強は生半可なものに思えましたね。

助動詞の授業に感銘を受けた高校時代

では、ご自分の上野高校時代を振り返られて印象に残っていることは? 家では学校の勉強よりも歴史や哲学の本を読んでいる生活でした。数学も好きで「大学への数学」という雑誌を購読していました。答えがきれいに出来る勉強が魅力でした。授業では、社会の佐々木隆實先生や地学の奥山茂美先生が印象的でしたが、国語の山田得治先生が助動詞の勉強で「接続は活用形別に覚えよ」と言われたことにハッと思いました。それが今の研究に進んでからも大いに役立ちました。

たまに帰省されて上野の市街地の空洞化は寂しい、とのことですが…… やはり、ふるさとを遠くにおいて思うもの、ですかね。(笑) 観光客が忍者の衣装で街の中を大勢歩いていますが、活性化のためにいろいろな施策を打ち出してくれることを期待しています。

(取材・福田和幸 高18回
写真・佐藤修 高18回)



古川タクさんに紫綬褒章

本誌前号で紹介した古川タク(本名・肇郎)さん(高11回)が今年の春の叙勲で紫綬褒章を受章されました。イラストレーターとして長年の国際的な活躍が評価されたもので、同窓生としてお祝い申し上げます。(カットは5月17日の授章式の「自画像」をお借りしました。)

近く、古川タク瞬間漫画集「ブルブル」(文源堂刊)がオンデマンド出版で出るそうです。(www.bungekai.jp)



東京支部「上野元気会」と連携

上野高校同窓会東京支部有志の方々によって「上野元気会」という会が結成されました。5月8日に開かれた第2回目の会合のために上京し、上野町の昨今の諸事情を話し、懇談しました。「元気会」の幹事の方が、上野でまちづくりなどに関わる民間の活動団体を探していたところ、私の関わる「伊賀上野まちづくり市民会議」の名が挙がったという訳です。

当日は、東京支部長の他、上野町出身の先輩方に囲まれて多少緊張しながら、まず私たちの活動と、今年行われる「秘蔵のくに伊賀の蔵びらき」事業の概要説明をしました。そして本論で

ある、それぞれの方々への故郷に対する思いなどの語らいの中で、時に上野に戻るにつけ昔に比べて町中の活気がなくなり寂しい限り、その現状を懸念し、この後どうすれば良いだろうかという声が多く出されました。会には様々な専門ジャンルで活躍された方々がおられ、むしろ外から眺めると良い方策が思い浮かぶことがあるので、どしどし上野町の色々の情報を発信して欲しいし、そしてこれを期に交流の輪を広げ、具体的な施策の議論を深めたいということでも4時間余りの懇談会が締めくくられました。(滝井利彰 高18回)

会費納入のお願い

会員の皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。上野高等学校同窓会は、毎年春の卒業生による新入会員入金と全会員にお願いしております年費の合計で運営されています。

・上中会、くれは会、扇の芝会への支援
・各学年同窓会への支援
その他、総会の拡充や会員名簿の管理等行っております。
昨年度分としてご協力いただいた方々は、5月31日現在3,024名で6,048,000円のご支援を賜りました。

- ・ご承知の通り、非常に活発な同窓会活動を行っており、この1年間の主な事業を挙げますと次の通りです。
- ・同窓会報「白亜」の発行
- ・ホームページの運営
- ・一般公開講座(明治校舎で学ぶ「ふるさと伊賀 再発見」パート6)
- ・開催「面・墨・舞」の後援
- ・「雪解の集い」の後援
- ・百周年記念施設の維持管理
- ・東京、名古屋、京阪神支部への支援

上野高等学校同窓会の経済基盤を強固なものにし、母校への支援、会員への情報サービスの充実等、更なる発展を願うものであります。
今年度も年会費(一口2,000円)の納入につきまして、会員皆さまのご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

「人との出会いを大切に」

ピアニスト 北川美晃さん (高42回)

ピアニストとして中部地区を中心に活躍の北川美晃さんが、4月3日に三重県多気町で「オーストリアからの素敵な贈り物」と題して、ウィーン在住の歌手三谷結子さんと共演を行いました。この機会に、伊賀へ帰郷を願う、日々の活動などについてインタビューをさせていただきました。

幼いときから童謡のレコードを聴くことが好きだったようですが、4歳くらいになると、ヤマハ音楽教室の生徒募集のポスターを見て、始めたいと親に言ったのがきっかけです。

親にピアノを買ってもらって、最初は地元の柘植町で習い出しました。小学生になって、上野市の教室で習うようになり、グループレッスンを受けたことも多かった。これが面白かった。ドラムなんかも叩いたりして、本当は小学4年生で終わるはずのグループレッスンを、無理を言っただけで続けられていた。

「そのころからピアニスト志望だったのですか。いいえ、ただ、中学1年生のときに、名張のピアノコンクールに出て1位を取ったのです。そのときの審査員が三重大学の兼重直文先生で、それから兼重先生のレッスンに通うようになりました。私が大学に入るまで続けました。たぶん、伊賀地方では東へ向けてレッスンに通うのは数少なかったのではなかったでしょう。



プロフィール

きたがわよしあき さん
ピアニスト。
●1972年 岡山県伊賀町出身。
上野高校第42回卒、東京音楽大学ピアノ科卒、愛知独立芸術大学大学院音楽研究科(ピアノ)修了。
全日本学生音楽コンクール入賞、ピアノ教育実践ピアノ・オーディション全国大会入賞、東京サントリーホールでの「ショパン全曲演奏会」に出演。2003年1月三重大学音楽系定期演奏会にてピアノ・コンチェルトのソリストとして共演(指揮:兼重直文)。シャンソン、和楽器などとの共演も積極的に行っている。



「北川美晃と仲間による室内楽コンサート」にて(2003年9月21日、ささ木ホール、右は岡部玲さん(Vc))

兼重先生のレッスンは厳しかった。行くのが嫌で、家になかなか入ることができず、周りをぐるぐると回っていたこともありましたが、そこで基礎をきちんと身につけることができました。また、兼重先生はヒントは出しにくく、答えは教えてくれ

わば、先生のコントロールによって、ここまで来たのです。
そして、音大へと進まれるわけですが、これも、自分で決めたというよりは、先生から勧められたというのが実際のところですが。

大学はこれまた楽しかった。遊んでいる感覚だった。1学年が400人で、うちピアノ科が150人。ヴァイオリンなどテレビのオーケストラで見る楽器と一緒にできるというのが新鮮でした。とにかくレッスンで、技術を磨く毎日。先のことは考えてなかったです。

ない。自分で見つける。音をつくる。音楽をつくる。こうしたことも学びました。音の色とか、音の裏を探っていく過程が面白いのです。

中学3年生のときに、全日本学生音楽コンクールの名古屋大会で3位になり、上高1年生のときには、コンクールで全国2位の成績を収めました。い

そうして、大学に入るまでレッスンを受けていた兼重先生が、愛知県立芸術大学にも教えにいられたのです。先生のお誘いもあって愛知県立芸術大学の大学院へと進みました。大学院ではすべてが実践、つまり、レッスンの日々でした。
そうしていると、自然に人との繋がりができてくるのです。ここから仕事が生まれてくるのです。2月に修士課程の修了試験があるというのに、1月にはコンサートに出演しているというような毎日でした。

正直決まった仕事はありません。月の半分くらいが事務所の仕事で、あとは合唱団でピアノを弾いたり、コンサート活動をしています。また、大学院でバンドを組んでいた縁で、ポピュラー界のライブパーティーに出演したりもしています。
自分が純粋に何かやっている中に、仕事が入ってくるのです。
3、4年前には、NHK「中学生日記」において効果音の収録もしました。
シーンに音楽を付けていくものです。
では、北川さんにとって、音楽とは何でしょう。

「人間のそのもの」といえます。音楽を弾きながら、音楽は面白い。皆が知っている曲を演奏すれば楽しんでもらえると思うのは浅はかです。知らない曲であっても、見ている人が楽しめるように音楽中心で周りを創る必要があるのです。音楽は耳で聴くものではないけれども、見て聴いてもらいたい。視覚的な演出効果も必要なのです。
ですから、4月3日の三重県多気町でのコンサート例にとっても、ウィーンの居酒屋の雰囲気を出したりと、舞台の演出にも関わりました。
これからは人との関わりの中で、いい仕事をしたいと思っています。欲はないのですが、人との出会いを大切にしていきたいです。

平成14年度 (平成14年9月1日~平成15年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会 名簿特別会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 手前年度, 翌年度, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成15年度 (平成15年9月1日~平成16年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会 名簿特別会計収支予算書

Table with 4 columns: 科目, 手前年度, 翌年度, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成14年度 (平成14年9月1日~平成15年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会 百年記念事業(募金) 特別会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 手前年度, 翌年度, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成15年度 (平成15年9月1日~平成16年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会 百年記念事業(募金) 特別会計収支予算書

Table with 4 columns: 科目, 手前年度, 翌年度, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成14年度 (平成14年9月1日~平成15年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会 一般会計収支決算書

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 対予算比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

平成15年度 (平成15年9月1日~平成16年8月31日) 三重県立上野高等学校同窓会 一般会計収支予算書

Table with 4 columns: 科目, 本年予算額, 前年度予算額, 前年度実績額, 対比. Includes 1. 収入の部 and 2. 支出の部.

岡村信也先生は昭和四一年四月から昭和四三年三月までと、昭和四五年四月から平成八年三月までの合計28年間にわたって本校に勤務されました。その間、担任よりも、主として生徒指導、図書、教務、環境整備などの仕事に当たられました。授業は音楽担当で、当時行われていた「高野山オリエンテーション」には、ほぼ毎年新入生を引率されて校歌指導をされていたとのこと。

在任中を振り返って一番大変だったのは、創立八〇周年の事務局として会員名簿づくりを担当された時のことだと思います。それまでは前身校である上中、阿山、市女と上高がそれぞれ同窓会組織を持っていましたが、統合して一つの同窓会になった時期で、苦心の末でできた名簿は、現在発行されている「会員名簿」の基礎となっています。岡村先生について忘れてはならないのは、やはり吹奏楽部の顧問としての

懐かしの先生をたずねて

顔でしょう。その緻密な指揮は有名であり、コンクールでも優秀な成績を残されただけでなく、国体やインターハイ、国民文化祭、近畿高校総合文化祭など大きな行事をたくさん手がけられました。そんな中で思い出に残っていることについてお聞きすると、国体の合唱伴奏隊を指揮したことなどたくさんあるが、昭和五六年の夏に秋田で行われた全国高校総合文化祭に生徒を引率して参加したとき、異常な暑さで鉄道のレールが曲がって運休となったため、別の列車を乗り継いで深夜になってようやく宿舎に着したことが忘れられないとのことでした。

岡村信也先生



指導にあたられています。また、これまでも飯南高校校歌、大山田村民歌をはじめ、作曲や編曲も多数手がけられてこられました。今も曲を作ったり、アレンジをされており、最近では新しい大山田小学校の校歌を作曲されました。最後に「知識があっても技術があっても最近では基本の大切さが希薄になっている。目先のことに振り回されず、基本を大切にがんばってほしい。」と吹奏楽の後身に対してメッセージをいただきました。(辻 成尚 高33回)

呼び合いしあひだ名諸共卒業す
作者は北村純一さん(高18回)。学生時代から俳句を始め、銀行マンとしての生活の中で、折々の気持ちを五・七・五の表現に切り取ってきた。五十代半ばになって自らの青春を振り返りながら「団塊の世代」に対し、世の中の「しくみ」の是非

佐々木龍寶先生は、社会科、中でも倫理社会、政治経済を中心に、26年間教鞭をとられました。大学をご卒業されて、上野高校へ赴任するまでは、京都で大学の設立準備に取り組まれる傍ら、洛南高校でも教えておられました。上野高校へ着任されて佐々木先生にとって一番思い出されることは、「模試の時間が取れないので、体育の時間に模試を実施する。」という運営委員会の原案に「模試を受ける者は、体育の授業を受けられないからおかしい。」と反対された事だそう。当時は運営委員会の原案がほとんどフリーパスだったそうで、「結局、日曜日に模試の監督をすることになってしまったが、自分なりに筋を通してよかったと思っっている。」と感慨深げにお話しくださいました。

受け持つ教科の関係で、1・2年生の担任が多かったそうですが、先生の印象に残っているのは、進学した生徒もさることながら、就職したり、家業に就いている生徒だそう。卒業後も心配になり、今でも年賀状を交換している生徒もいるそうです。

佐々木龍寶先生



クラブ活動では、軟式野球部の顧問として、東海大会の引率をされました。それにもまして思い出深いのは、「あすなろクラブ」の設立に関わられたことだそう。特に、生徒のほうからクラブ設立についての強い申し出があり、顧問を引き受けられました。活動としては、名張育成園を訪問したり、文化祭で映画を上映したりということ。上野高校にあすなろクラブがあるから入学してきた。という女子生徒もいたそう。あすなろクラブは、現在「あすなろインターネットクラブ」として存続し、ポラ

「上野高校在学中に、上野城の高石垣を見て興味を持ったのが、お城の研究の始まり」とのこと。

福井さんは、上野城などを管理する伊賀文化産業協会専務理事を勤めており、過去にも「上野城史」(68年)、「上野城郭図集」(74年)などを著された経歴をお持ちです。

今回の著書には、カラー絵図4枚、古写真24枚・建物図27枚・絵図写47図

お城の研究家として知られる福井健二さん(高6回)が、4月に「上野城と城下町」を自費出版されました。

お城の福井さん、研究を集成

等を集録しており、福井さんの調査研究の集大成といえるべきものです。江戸時代における上野城下町の移り変わり、また、藤堂藩政を知る上で、貴重な資料となることでしょう。(増田 雄 高42回)

総会報告

平成15年度の総会は昨年10月5日に上野フレックスホテルにおいて開催されました。前月に行われた役員会・理事会の議案が審議承認されました。総会事項は次の通りです。

◆日時 平成15年10月5日(日) 14:00~17:00
◆挨拶 星周輔会長 上村桂一学校長
◆来賓 大中道昭郎東京支部長 上野伊二名古屋支部長 松井昭京阪支部支部長
◆議事 平成14年度事業報告 平成14年度一般会計及び特別会計の決算・監査報告

平成15年度事業計画
平成15年度一般会計及び特別会計予算案
平成14年度会計決算と平成15年度会計予算は前頁の通りです。

総会に続いて記念講演会が行われました。

◆演題 「今、求められるライフデザイン」
～人生と時代の交差点～
◆講師 宮田 安彦さん(高32回) 大妻女子大学家政学部 ライフデザイン学科講師
◆講演を聞いて ライフデザインとは「自分の人生を設計する」ということで、社会のデザイン(これも個人の意思決定次第)とのかかわりの中で、個人の人生をどう充実させるかを考えるということである。人生には時代とともに生きる長い時間軸がある。そのことを考えライフデザインが求められる。現在の時代の中でのライフデザインとはどんなものであるべきか、講演していただきました。



特に、後輩の夢の実現に手を貸すことが自分の成長になるという「情けは人のためならず」ということが印象に残りました。これからの同窓会活動にとってとても大切なことだと思いました。最後に、人生の要素を会社の外にももつ、バランスのとれた生き方・働き方を考える南アルプス山の学校での活動について紹介がありました。(福井 亨 高25回)

出版2題

「団塊世代へのシユプレヒコール」
「ゆつくりと文明滅ぶ花の雨」

「団塊世代へのシユプレヒコール」
「記憶というのは実に風化しやすいものです。戦争で多くの人を傷付け、自らも傷付いたにも拘らず再び「あやまち」を繰り返しかねない動きがある。何でも繰り返して語り継いでゆくことで「ゆつくりと文明滅ぶ花の雨」



▲出版を紹介した新聞紙面

おたより おしらせ

この欄では、各支部・各年次などで行われた同窓会を今後も紹介していきます。原稿(400字程度)を事務局までお寄せ下さい。

上中会総会

平成十五年六月一日、ウエルサンビア伊賀において、上野市長今岡隆之氏を始め上高同窓会長星周輔氏、上高校長上村桂一先生、上高同窓会事務局長の福井亨先生のご出席を頂き約九十名の会員出席のもと盛大に総会を開会することが出来ました。総会の議事終了後特別養護老人ホーム「さわやか園」の施設長をされて居る四十一回卒業の宮本保彦氏により「老人福祉と介護」について記念講演をお願いし、現在少子高齢化の中で問題の多い福祉介護の実態について色々と多くの事を学ぶ事が出来ました。

又その後の懇親会では白鳳城のもとで育まれた上中時代の固い絆と共に和気あいあいの中旧交を温める事が出来更に四十三回の富田孝典氏の「ハーモニカの演奏により意気揚々最後に校歌を斉唱して幕を閉じました。

「くれば会」や「福の芝会」では今「くれば会」や「福の芝会」では今



新卒業生歓迎懇談会 (東京支部)に参加して

この6月5日、同窓会東京支部の主催により、第20回新卒業生歓迎懇談会が東京銀座、三笠会館にて開催され、旧3年生学年団の代表として参加した。

卒業から3ヶ月しかたっていないが、今までの人生で最大の変化を体験した生徒はどのようにかわっているだろうか、好奇心いっぱいこの日を迎えた。そんな中、現れた卒業生は、高校時代と変わらぬ屈託のない笑顔と、せせこましいと早速、友人同士・OBの方々の苦勞話に花が咲いた。彼らの話しぶりから、慣れない環境で初めての一人暮らし、苦難の連続だが自分の夢に向かってけなげにも乗り越えていこうとする強い意志、姿勢が垣

間見られ一度向けたようでも頼もしく、大変だがこれからの人生を生き抜いていこうという意気込みが伝わってくる。今春の卒業生9名が出席したが、新卒者には少なかつた。しかし、それは見事に乗り越えていった証である。若人にとって今はアイデンティティを確立するために同窓会に集うより、目の前に大きく広がっている将来へ志向が高くなるのは当然である。しかし欠席した大学生もいずれは後輩への気遣いができる余裕を持った熟年になれるような人生を歩んでもらいたい。

出席した新卒者は誰も知らない地へ出てきた後輩を気遣うために忙しい合間を縫ってこのような催しを開いてくれる先輩の心のゆとり、思いやりを受け継いでほしい。

上中42回卒 学年同窓会

近くに日生学園が見える「Resort PARADISE」が本日の会場である。最初に庭園で記念写真をとる。それぞれの風貌、足腰、どのひたひたを拾い出しても、もう若いという範疇に入らない。自分を含め誰もが70歳代半ばすぎという年齢にどうしても隠せない。

しかし、学校を離れて60年になって同窓会というものは卒業後の60年の業績、今の社会的地位などをすべて帳消しにして中学生のままで語れるところに意義がある。

幹事の「黙持」の合図で物故者への黙祷を捧げる。もう4割が鬼籍に入っているのである。

同窓会にはいつも東京からかけつけた松山英敏君は残念な交通事故死された。

上中の卒業証書は、僕ら46期生の手渡されたのを最後に「絶版」となった。あれから55年、在校5年間に培った自強不息の誇りと友情は、年を経るにつれますますます暖かく心に沁みる。僕らは、上中の殿をつとめ、あとは次代の発展に期待する。

三重県立上野中学校の 「殿」をつとめて

た。自宅の前でタクシーから降りて車にはねられ亡くなったそうである。中国の江沢民(前の国家主席)と同窓生で11月にはまた中国に行く予定であったとか、我々も松山君の案内で中国へいこうといつも話をしていた。

参加者各人、近況の話をした。

伊室氏は東京から、房川氏は大阪から、藤田氏は名古屋から、こうして遠い所から参加してくれた友の義理堅さを感じる。

それぞれの都合で上野市に在住していても出られぬ人も多く居り、同窓会に出るための条件の一つは健康であることだろう。

そして、次回に果たして会えるだろうかと不安を持ちながら、別れの手を振った。伊賀の山々の緑はいつまでも心に褪せないだろう。

(津市在住 山崎)

た。今は亡き25人の恩師をお招きし、全て僕ら教員が代理出席して会を盛り上げた。「来年は母校玄関前で記念写真を撮ることとし、クラス全員に通知して、名実共に46期クラス会に発展・拡大させる」と決議し、その代表世話人に星周輔君を指名した。

② 上中ゴルフクラブ

46期生で月一回(炎夏・雪冬は休会)。終身幹事を大久保忠司君が引き受け、世話、万般すべて幹事任せという心地よいクラブ運営。この9月例会には、全員にマツタケの賞品が出た。プロ級の腕前から、HC45のブラサガリ会員まで、同級ならではの楽しい会。四国・京阪神・中京から毎回参加する常連をふくめ、会員31名。奥さんの参加もOKである。

③ 上中46期生・五の会

毎月五日に集って石を囲む。局勢半分・講釈半分のリীগ戦。関西棋院六段免状所持者から3級まで。勝敗眼中におかず、専ら楽しむ。年12回の例会のうちで、正月には若松賞、四月には桜花賞、七月石解賞、十月榎の実賞が授与される。来春の正月大会には、上中同窓会会長賞が新設されても恥しくない、世間に冠たる囲碁の会である。(会場は清原清誠君宅)(03・12・3記)

(文責・松原美香 46回卒)



自己紹介する新卒の学生たち

卒業してからも「上高」というキーワードで集える君たち、そして暖かく見守ってくれる先輩がいる君たちを多少の嫉妬心を持ちながら眺めさせてもらいました。(吉田貴彦 本校教諭)

「面・墨・舞・鼎展」開催

さる三月十八日(二十二日)、相生町の栄楽館で、第四回卒の同期生による「鼎展」が開催された。能面・山路阿女(旧姓隠岐伸子)、墨象・松本昌陽(本名松本博志)、日本舞踊・川口牡丹(本名荒木延子)の三人展である。

今年はずいぶん同期生の古稀にあたり、そのお祝いも兼ね、上野芸術文化協会の事業として発表される運びとなった。



川口さん

開催期間中、栄楽館の一階では、「愛燦々・泪滑々・花瑠々」をテーマに日本舞踊が、二階では端正な造型の



松本さん



山路さん

能面と、春風にそよぐ「花」の字を筆頭に多数の書・墨象(前衛書道)の展示があり、連日「満員御礼」の盛況ぶりであった。栄楽館は川口さんの生家であり、感慨も一入であったろう。これを機に同期の皆さんの親睦も一段と深まったのではないだろうか。(安原宣子 高19回)



上高第8回生学年同窓会

私たち第8回生は2年に一度全学年の同窓会を開催しております。前回の熱海に続き今回は古都奈良での開催となりました。

甲南女子大学で英文学を教えておられる杉浦先生のご参加をおおき、78名の同期生が参集いたしました。おたが

い白髪もしかも増えましたが気分は青春時代のまま。にぎやかに旧交をあたためました。

また、アトラクションとしてオカリナ奏者として有名な野上圭三さんほか2名のアーティストをおよびして、すばらしい演奏に皆うっとりいたしました。

同時に、新大宮のギャラリ「風と心」(同期生の町中さん経営)で第3回「手すさびの会」展を開催いたしました。これは4年前、有志がお稽古事や趣味でやっている手遊びの品々を持ち寄って展示会をし好評を博したもので、奈良での同窓会開催によせて今回も開きました。

全国から20名が木版画、絵画、書、写真、手芸、陶芸などを展示しここでワイワイと楽しいおしゃべりの花をさかせました。(福森夏子)

上九会同年会便り

2年毎に開催している上高(普通科)9回卒生の同年会、今回は大津市の旅亭紅葉で、平成15年9月7、8日開催。恩師3名を含め、男47名女36名計83名が出席。

3年毎は上野・関東・関西のプロツクの持回りで開催しており、今回、関西地区が担当した。出席者は地元関西地区、上野地区、そして遠く関東からも多数の参加頂いた。

開催地に大津を選んだ背景は、主幹事務の福本勝三君が仕事から馴染みのある土地で、お蔭で色々便宜を図って貰え、幹事一同非常に助かったし、そして、松尾芭蕉のお墓がある事でも、身近に感じて貰えるのではとの思いも込めての選択でした。

出席予定者全員揃って元気な姿を見せて頂いたのが、幹事には特に嬉しかった。18時からの宴会に先立ち全員の記念写真、フラッシュ不要の御仁も少なからずと見受けたが、皆さん学生時

橋本理市先生 中国へ1年間講師赴任「同門会」開催される。

平成15年8月17日(日)同門会(昭和40年前後に上野高校生物部・ギターマンドリンクラブに在籍した卒業生OB会)が、当時教師であられた山川修吉先生、山田耕作先生、橋本理市先生をお迎えし、上野市相生町「栄玉亭」(会員上山嬢(S・43卒)のご実家)において開催された。今回の同門会は、一念発起の橋本理市先生の中国出発社

行会が中心であった。お世話には、例によって杉水氏(S・39卒)を中心とした下市氏(S・42卒)、直居氏(S・44卒)の面々で、出席者は、東京、愛知、大阪、地元等から総勢22名であった。先生方のご挨拶では、山川先生が今だに山歩きをされている事、山田先生が若の権威として宮中に招かれ陛下とお食事をされた事、そして橋本先生から日本語の指導講師として中国の吉林省へ1年間赴任する旨の挨拶が行われた。皆、橋本先生の日本語は、「伊勢言葉です」と話題しきりであった。山川先生は80歳代、橋本先生、山田先

代に戻った面持ちでの撮影であった。宴会は福井正和先生のご発声での乾杯でスタート、続いて現上野市長の今岡睦之君から上野市の近況をお聞かせ願ったが、既に上野を離れ、且つ訪れる機会の少なくなった仲間にとっては、懐かしい思いで聞かれたのでは無からうか。

宴もたけなわになるに、あちこちで学生時代の思い出話や、お孫さん或いはご両親の介護の話、そして、待ちきれない阪神の優勝の話等、話題は尽きず。続いてのカラオケ・タイム、そして、部屋での3次会と盛りだつたが、以前と異なり、嘗ての酒豪達中も、真夜中には琵琶湖の湖面のように静かになっていった様です。

明けて8日、朝食後は琵琶湖で遊覧船での舟遊びを楽しんだ後、宿舎に戻り、中華テーブルを囲んでのランチの間も話題に事欠かず、散会時間が近づくと、愈々雰囲気盛り上がり、早くも次回担当の上野組が開催場所何処にするかでアイデア続出する中、又

生は70歳前後になられたが至って健康在であった。二次会は、カラオケルームに繰り出し、上野高校同門会に衰えなしを確認し合った一日であった。橋本先生の帰国報告会を、次回楽しみに皆、散会した。

(記S・46年卒 中井茂平)



の再会を約して名残を惜しみつつ、皆さん家路についていただいた次第。

(幹事一同)



上高第32回

十月五日(日) 秋晴れの心地よい日。上野高校総会および記念講演会と合同という形で、第三十二回卒業生の同窓会を開催しました。

講演会の講師が、同期生の宮田安彦君ということもあり、三十人余りの人が出席してくれました。前回は正月に開催したため、百人余りが集まりましたが、今回はゆつくりと話ができ、よかったです。

宮田君の講演は、「今、求められるライフデザイン」というタイトルで、人生の階段ごとに違う課題があり、父現あるいは母親としてのあり方、職業人としてのあり方が、自分の人生はもろろん、社会全体の問題にまで影響してくるということをわかりやすく話してくれました。

子育ての最中にある私達に、子育てとはどうあるべきか、幼い頃から暖めてきた夢と現実との折り合いをどこで

上高第22回(S・46年卒業) 卒業生同窓会

穏やかな晴天に恵まれた平成十六年一月二日、上野高校第二十二回(S・46年卒業)卒業生の同窓会が、同窓生が経営する赤目対泉閣に於いて開催された。

恩師の奥友親先生、保井久子先生をお迎えし、各地から四十七名が集った。先ずは、十七名の物故者のご冥福を祈り黙祷をささげた。続いて、両先生から一言ずつお言葉を頂いた。お二人の先生方ともたいへん若々しく、益々お元気に活躍されている様子に、出席者一同嬉しく拝聴した。また、私達の宴席に交じって同席にという両先生のご希望は、それなりの容顔となつてきた私達のほうが却って急速に年をと

り、恩師と教え子というよりはあたかも友達同士であるかのような錯覚を覚えるほど、心温まるご配慮であった。乾杯に続いて和やかな宴に移り、途中、出席者各々の自己紹介と近況報告をし合った。「孫が産まれて、可愛く

上高第34回

今年、五月二日に、上高第三十四回卒業生(昭和五十八年三月卒)同窓会を上野フレックスホテルで開催しました。

学年の同窓生全員に呼びかけての実施は初めてでしたが、予想をはるかに上回る一二七名という大勢の方にご参

集いただきました。また、森先生・吉永先生・西出先生・木澤先生・坂口先生の五名の恩師の先生方にも参加いただき、会に花を添えていただきました。

同窓会は、昔話に会話が弾んだり、レクレーションやフォークダンスを楽しんだり、あつという間に時間が過ぎました。一番盛り上がったのは、「二十二年越しの告白タイム」でした。選ばれた方は、恥ずかしながらも勇気(?)を出して告白し、会を盛り上げてくれました。

また、二次会、三次会も、たくさんの方に参加していただき、旧友の「よさ」をあらためて感じた一日でした。次回の同窓会は、「二〇〇名出席」を目標にしています。再会を心待ちにしております。

(高橋昌史)



各支部総会等開催されました

上中会幹事会	4月16日(金)	ウェルサンピア伊賀
京阪神支部総会	5月30日(日)	大阪キャッスルホテル
東京支部新卒業生歓迎会	6月5日(土)	東京銀座三笠会館
上中会総会	6月6日(日)	ウェルサンピア伊賀
県の芝会総会	6月6日(日)	ウェルサンピア伊賀
くれば会総会	6月20日(日)	ウェルサンピア伊賀
名古屋支部総会	6月27日(日)	東京第一ホテル錦

今後の開催予定

東京支部総会	11月14日(日)	東京都ホテル
--------	-----------	--------